

# 公益財団法人大倉精神文化研究所 令和2年度事業報告書

公益財団法人として9年目を迎えた令和2年度(以下「2年度」という)は、「世の為に田を耕す」という創立者大倉邦彦の理念を踏まえると同時に、令和4年の創立90周年記念を展望して、①精神文化の研究及びその成果の普及、②地域における歴史・文化の研究及びその成果の普及、③附属図書館の運営及び図書資料の充実・整備の3つの柱からなる「令和2年度事業計画」を着実に推進し、文化の振興に寄与しました。

2年度は、新型コロナウイルス感染による緊急事態宣言の発出などがありましたが、「こころを磨き、からだを鍛える」をテーマに、神道、儒教、仏教、キリスト教、武道、芸道等の分野から心身の磨き方についての研究及びその成果の普及をはじめ、沿革史資料の目録データのOPAC公開、多言語対応リーフレットの作成、子ども向け『大倉邦彦物語(仮称)』の台本作成などに積極的に取り組みました。

## 1 精神文化の研究及びその成果の普及

### (1) 実用の学の研究及びその成果の普及

当財団の活動は、精神文化についての学術的な一面とともに、その学問が現実社会の宗教・教育・政治・経済の実地にふれ、よりよき社会への進展に貢献するという一面も備えています。

実用の学の研究では、このような考えのもと、実業家の実学観や文化事業・教育事業等の調査・研究や資料収集を行っています。

当研究所を創立した大倉邦彦は、自らの使命を實踐して社会に貢献するためには、清らかで強い心を持たなくてはならないと説き、当研究所で修養会等を開催しました。

そこで2年度は、「こころを磨き からだを鍛える」をテーマに、神道、儒教、仏教、キリスト教、武道、芸道、医学等様々な分野から心身の磨き方について研究を進めました。その研究成果の一部は『大倉山論集』第67輯の小特集で公開しました。

なお、4月から6月までの大倉山講演会は、表-1「大倉山講演会」に掲示した日程で開催を企画していましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から延期することにいたしました。3月は事前予約制とし、体温測定を行うなどの感染拡大防止対策を実施して開催いたしました。

<表-1「大倉山講演会」>

■共催：横浜市大倉山記念館指定管理者 会場：横浜市大倉山記念館ホール

回	開催日	演 題	講師	参加人数
開催延期	4月18日	井上円了の活動主義について	竹村牧男	新型コロナウイルス 感染拡大防止のため
開催延期	5月16日	魂をうちだす鍛冶のこころもて —大倉山修養会の目的と実践—	星原大輔	新型コロナウイルス 感染拡大防止のため

開催延期	6月20日	キリスト教の瞑想 －聖イグナチオの霊操とヴィパッサナー瞑想の活用－	柳田敏洋	新型コロナウイルス 感染拡大防止のため
第90回	3月20日	江戸時代医学諸派にみる身体観と養生思想	町泉寿郎	40人

## (2) 東西文化融合の研究及びその成果の普及

日本の近代化と西洋文明の受容は、日本人の価値観や思想に大きな変化を及ぼしました。

創立者大倉邦彦は、国民の教育や人格形成において、日本の伝統文化を学ぶことが基本であると説き、当財団を設立しました。

その一方で、大倉邦彦は上海の東亜同文書院で学んだ経験や、実業家として世界を回った体験から、東洋文明の枠組みに囚われることなく、西洋文明の学問成果の良いところも積極的に取り入れることを提唱しました。

そこで2年度は、近代化が日本人の信仰や心身の修養などに与えた影響に着目して研究を進めました。さらに、大倉邦彦の思想に影響を与えたインドの詩聖タゴールの思想や東亜同文書院の研究、国際的文化人として東洋と西洋で活躍した岡倉天心の研究も進めました。研究成果の一部は、下記の公開講演会で発表しました(表-2「公開講演会」参照)。10月、11月に開催した公開講演会は事前予約制とし、体温測定を行うなどの新型コロナウイルス感染拡大防止対策を実施して開催いたしました。なお愛知大学との共催による公開講演会は中止となりました。

<表-2「公開講演会」(中止も含む)>

■共催:愛知大学 会場:横浜市大倉山記念館ホール

回	開催日	演 題	講師	参加人数
—	7月4日	古典文学のこころ(仮)	—	新型コロナウイルス 感染拡大防止のため 開催中止

■共催:第36回大倉山秋の芸術祭実行委員会 会場:横浜市大倉山記念館ホール

開催日	演 題	講師	参加人数
10月31日	作曲家古関裕而の音楽人生一人柄と作品一	刑部芳則	40人

■共催:岡倉天心市民研究会 会場:横浜市大倉山記念館ホール

回	開催日	演 題	講師	参加人数
第6回	11月28日	インドの岡倉覚三	臼田雅之	38人

## (3) 創立者及び研究所関連資料の研究・調査とその成果の普及

精神文化についての科学研究及びその普及活動を行う上で、研究の基礎となる資料を収集・整理・保存することが欠かせません。それを実践することにより、研究及びその普及活動を効率的・効果的に進めていくことができます。

このような考え方に立って、創立者である大倉邦彦の思想や事績、研究所の創設から現代に至る沿革等の調査・研究、資料収集等を継続的に実施しています。2年度は、経常的な資料整理作業(附属明細書参照)に加えて、特にアナログ音源と写真のデジタル化事業に取り組みました。

## ア アナログ音源のデジタル化事業

当財団では、大倉邦彦を始めとする研究所関係者の肉声を記録したオープンリールテープや各種カセットテープ、SPレコードなどを所蔵しています。しかし、テープ類は劣化が著しく、また再生機器も無くなりつつあるのが実情です。そこで2年度は、SPレコード20枚をデジタル化しました。

## イ 写真のデジタル化事業

沿革史資料の中には、当研究所設立準備中から今日に及ぶ様々な写真類も含まれています。これらの写真は、当財団の活動内容や地域の様子を知る上で貴重な情報源となります。外部機関よりの問合せや借用依頼も多いことからデジタル化を進めています。2年度は、特に大倉邦彦が1926年のヨーロッパ視察で購入してきた絵葉書を中心として、761枚の外国絵葉書をデジタル化してインターネットで公開しました。

## ウ 沿革史資料目録のOPAC公開

現在整理作業中の沿革史資料は、整理済み資料の目録件数が約110,000件となり、外部研究者からの問合せや閲覧利用が増えつつあります。そこで、平成30年度より目録データを、図書館情報管理システム「情報館」のデータに順次変換し、OPACによる目録公開を開始しています。2年度は10,908点を公開しました(9頁「3(3)イ 貴重コレクション書誌データのOPAC公開」参照)。

## エ 資料の展示

資料調査や研究成果公開の一環として、特別資料展を2回開催しました(表-3「研究所資料展一覧」参照)。なお企画準備していました研究所資料展1回、特別資料展2回は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催を中止いたしました。

<表-3「研究所資料展一覧(中止も含む)」>

### ■主催

回及び開催場所	開催時期	テーマ	入場者数
第42回研究所資料展 (附属図書館)	7月～12月	横浜とオリンピック展	新型コロナウイルス 感染拡大防止のため 開催中止

### ■協力:日吉地区センター

回及び開催場所	開催時期	テーマ	入場者数
特別資料展 (日吉地区センター)	4月2日～4月23日 (22日間)	日吉の英雄 横綱武蔵山	新型コロナウイルス 感染拡大防止のため 開催中止

### ■共催:横浜アリーナ

回及び開催場所	開催時期	テーマ	入場者数
第17回特別資料展 (横浜アリーナ)	4月25日 (1日間)	第33代横綱 武蔵山展 一日吉から大相撲の頂点へー	新型コロナウイルス 感染拡大防止のため 開催中止

### ■協力:神崎市立図書館・神埼情報館

開催場所	開催時期	テーマ	入場者数
第18回特別資料展 (神崎市立図書館 神埼情報館)	10月14日～11月9日 (27日間)	世のために田を耕す ー郷土の先人、大倉邦彦の社会貢献ー	ー

\* 展示会場がオープンスペースのため、入場者数はカウントできません。

■共催：横浜市大倉山記念館指定管理者

開催場所	開催時期	テーマ	入場者数
第19回特別資料展 (大倉山記念館ギャラリー)	12月9日～1月17日 (33日間)	大倉邦彦と大倉山記念館 ―世のために田を耕す―	345人

(4) 印刷物の編集及び発行・電子情報の発信

当財団では、精神文化の研究成果を広く国民全体に普及し、国民生活の向上充実に役立つように公開する手段の1つとして、印刷物や電子情報を提供しています。

ア 研究紀要『大倉山論集』の編集・発行

3月に『大倉山論集』第67輯(A5判 417頁 550部)を刊行しました。

<表-4 『大倉山論集』第67輯』目次>

小特集 ころろを磨き からだを鍛える	
特集にあたって	公益財団法人大倉精神文化研究所
講演録 「今」を生きる―葉隠と禅、その現代的活用―	島 善高
論説	
英訳『古事記』とチェンバレンの訳業に見る西洋人の日本文化観	松井嘉和
大倉邦彦と「日本文化講義」 ―在野の教学刷新実践者とその思想善導講義―	上久保敏
昭和戦前期の高等女学校とセーラー服の統一化	刑部芳則
覚書	
江戸小日向伊勢屋長兵衛をめぐる人々 ―所持地の家守と近親町人・後見人―	岡崎寛徳
戦前における在野研究者の蒐集活動と史料認識 ―金沢甚衛の河川交通史研究―	古畑侑亮
資料紹介	
白華文庫蔵「真宗説教」について	川邊雄大
寄贈資料「大倉孫兵衛旧蔵資料」からみる大倉書店の歩み	星原大輔
受贈図書一覧	
所報	

イ 各種リーフレット等の編集・発行

当財団の活動目的や活動内容の周知を図り、研究成果の公開や普及活動の効果を高めるために、講演会チラシ、展示会チラシ等を編集発行しました。特に、平成25年に作成した研究所紹介リーフレットは、部分的に修正しながら版を重ねてきましたが、内容が少し古くなってしまったので、9月に全面改定しました。併せて、横浜市大倉山記念館と大倉邦彦のイラストと「世の為に田を耕す」の文言を入れたクリアファイルを作成しました。また3月には、大倉山記念館指定管理者と共同で多言語対応リーフレットも作成しました(10頁「3(5)ウ 多言語対応の促進」参照)。

## ウ 電子情報の発信

当財団のホームページ等を活用し、研究成果や講演会、展示会等の情報を積極的に発信しました。また、SNSの活用として、ツイッターによる情報発信も行いました。4月には『大倉山論集』第66輯の内容をPDF(Portable Document Format)で公開しました。

## 2 地域における歴史・文化の研究及びその成果の普及

### (1) 他機関との連携事業

岡倉天心市民研究会、神崎市立図書館、神埼情報館、横浜市大倉山記念館指定管理者等の8団体・機関と連携して、講演会の開催や資料の貸し出し等を行いました(中止も含む)。

<表-5 「他機関との連携一覧」(前掲分は省略)>

時期	主催団体・機関名	連携事業
4月25日	大熊弁玉顕彰会主催	「第5回ゆらむろ忌」を後援 (新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止)
8月1日~16日	横浜市大倉山記念館指定管理者主催	「大倉山記念館へ願いを込めて オープンギャラリー」を共催
9月13日	横浜市大倉山記念館指定管理者主催	「大倉山記念館オープンデー」を共催
10月31日~11月1日	大倉山秋の芸術祭実行委員会主催	「第36回大倉山秋の芸術祭」を後援
2月7日	横浜市大倉山記念館指定管理者主催	「大倉山記念館オープンデー」を共催 (新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止)
2月27日	横浜市大倉山記念館指定管理者主催	「今昔建築サロン」を共催 (新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止)

### (2) 講師派遣

日吉地区センター等の7団体・機関からの依頼により、講演、授業、シンポジウム等に講師を派遣しました。

<表-6 「他機関との連携一覧」(中止・延期も含む)>

時期	団体・機関名	テーマ及び派遣講師
4月12日(中止)	日吉地区センター	「日吉の英雄 横綱武蔵山」(平井誠二)
5月14日(延期)	港北区役所	「港北の交通・物流の移り変わり」(平井誠二)
5月25日(延期)	下田地域ケアプラザ	「日吉の歴史めぐり」(平井誠二)
9月19日(中止)	港北ボランティアガイド	「港北の歴史」(林宏美)
10月5日	地域演劇集団スターリンクス	「小机の重政」清聴会(平井誠二)

10月22日	神崎市いきいき大学	「世のために田を耕す～郷土の先人、大倉邦彦の教育貢献～」(平井誠二)
11月25日	明治神宮国際神道文化研究所	「「御逸事」の入力状況と収録対象について」(星原大輔)
1月13日	港北区役所	つなぎ塾トーク第7回(林宏美)
2月17日	港北区役所	「港北区の交通・物流の移り変わり」(平井誠二)

### (3) 依頼原稿の執筆

ASA大倉山情報紙等の4団体・機関発行の情報紙等へ15本の原稿を執筆し、掲載されました(附属明細書参照)。

### (4) 調査協力・記事掲載

- ① 5月21日、7月30日、9月9日、11月11日、12月9日、寺田様より横綱武蔵山関係資料の寄贈を受けました。
- ② 5月21日、高崎様より地域資料の寄贈を受けました。
- ③ 6月8日、12月10日、大倉様より大倉書店関係資料の寄贈を受けました。
- ④ 7月17日、ラマクリシュナ研究会へホームページ掲載資料としてタゴールら集合写真の画像データの貸与を行いました。
- ⑤ 7月25日、株式会社ジェネシスへ放送掲載資料として大倉邦彦の肖像写真等の画像データの貸与を行いました。
- ⑥ 1月12日放送NHK「先人たちの底力 知恵泉」#「江藤新平 次の時代をデザインするには？」の撮影に協力しました。
- ⑦ 2月、西尾市岩瀬文庫へ企画展「悪疫退散」(会期:2月6日～5月23日)の展示用として注連引のワラ蛇を送付し、情報提供を行いました。
- ⑧ 大倉精神文化研究所や大倉山記念館、港北区などに関する記事執筆の調査への協力や、当財団主催イベント紹介が、『仏教タイムス』等の15新聞・雑誌・ウェブで、35記事掲載されました(附属明細書参照)。

### (5) 見学案内

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、令和2年2月から見学受付を中止しました。

## 3 附属図書館の運営及び図書資料の充実・整備

当財団が、2年度の附属図書館(以下、「当館」という)の運営等で殊に心を砕いたのは、新型コロナウイルス感染が拡大する中で、その防止策を講じつつ、いかに附属図書館としての役割を果たしていくかということでした。

## (1) 図書館の公開

当館は、哲学・宗教・歴史などの入門書から専門図書まで約11万冊を備えた精神文化の専門図書館です。毎週火曜日から土曜日まで週5日間、午前9時30分から午後4時30分まで無料で公開しています。

2年度は、2日間の臨時休日開館を含め205日間開館しました(附属明細書参照)。しかし、前年度と比べると20日間減少しています。新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、開館日数だけでなく、入館者数、図書貸出冊数とも前年度を大幅に下回ってしまったのが実情です(表-7「図書館利用の実績」参照)。

その一方で、蔵書検索アクセス数は前年度の約4倍、422万件に急増しており、今後の施策を立案する上での貴重なデータを提供してくれました。

<表-7「図書館利用の実績」>

	開館日数	入館者数	図書貸出冊数	閉架図書閲覧冊数	複写枚数
令和2年度	205日	2,926人	2,863冊	244冊	903枚
令和元年度	225日	5,282人	4,436冊	229冊	1,020枚

- ・蔵書検索アクセス数:4,224,401件(令和元年度1,065,416件)
- ・図書館貸出カード登録者数:111人(令和元年度171人、累計1921人)
- ・レファレンス件数:53件(令和元年度12件)
- ・館内見学は受け入れを中止(令和元年度26回、311人)

## ア 新型コロナウイルス感染防止対策とサービス内容

新型インフルエンザ等特別措置法における事業者等に該当する当財団は、新型コロナウイルス感染防止に関する国等の施策に協力するとともに、事業の実施に際し、その防止策を講ずるという努力義務が課せられています。そのため、当館は、特別措置法の趣旨を踏まえ、新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた対策を着実に進め、利用者の安全性及び利便性の確保に傾注しました。その具体的な内容は、概ね「表-8」のようになります。

<表-8「新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた対策」>

期 間	対象エリア	対 策	サービス内容
4月1日～4月7日 (4月7日緊急事態宣言発出)	第1・第2閲覧室 公開書庫		閲覧室・公開書庫の利用停止、予約による貸出、返却のみ実施
4月8日～6月4日	全館休館		
6月5日～6月23日	第1閲覧室	消毒・マスク着用・検温・入館記録作成・換気実施等	予約による貸出、返却のみ実施
6月24日～1月7日	第1閲覧室 公開書庫	入室人数制限・座席数の削減	資料の閲覧・検索端末の利用等、ほぼ平常通りのサービス提供
1月5日	第2閲覧室	ドア常時開放・換気	予約制利用再開

1月8日～3月22日 (1月7日緊急事態宣言再発出)	全館		開館時間10時から16時に短縮
-------------------------------	----	--	-----------------

【その他の対策】カウンター・閲覧机への透明パーティションの設置、閲覧室・公開書庫の上げ下げ窓への網戸設置、窓の開閉による室内換気、図書館入口・公開書庫入口への消毒液設置等を実施

## (2) 資料の収集

### ア 資料の収集方針

当館では、精神文化に関する専門的資料、特に神道・儒教・仏教及び歴史に重点を置いた収集を行うと共に、入門書・教養書等も幅広く収集・整備することを方針としています。2年度は、新たに822冊(点)の資料を収集・整備し、OPACで公開しました(表-9「令和2年度受入資料実績」参照)。

<表-9「令和2年度受入図書実績」>

	閉架資料			開架資料		
受入総数 822冊 (点)	142	購入	4	680	購入	579
		寄贈	138		寄贈	101

年度末蔵書数:図書・AV資料総数:106,103冊・点(閉架資料82,880冊・AV資料221点、開架資料23,002冊)

<参考「令和元年度受入資料実績」>

	閉架図書			開架図書		
受入総数 947冊 (点)	152	購入	49	795	購入	702
		寄贈	103		寄贈	93

年度末蔵書数:図書・AV資料総数:105,281冊・点(閉架資料82,738冊・AV資料217点、開架資料22,326冊)

### イ 子ども向け精神文化図書コーナー(仮称)の整備

大倉邦彦没後50年(令和3年)を記念した「子ども向け精神文化図書コーナー」(仮称)の設置に向けて、約400冊の資料収集・整理を行い、準備を進めました。

## (3) 専門図書館としての機能充実

当館の貴重コレクションは、23種約40,000冊(点)に研究所沿革史資料(約110,000点)を加えた24種類に及びます。これらの資料の大半は他館に書誌情報がないため、独自に書誌情報のデータ化を進めており、前年度までに14コレクションのOPAC検索が可能となっています。

2年度も残り10コレクションの書誌データの詳細化を進め、専門図書館としての機能充実に努めました。

また、『課題解決のための専門図書館ガイドブック』(専門図書館協議会編、読書工房、8月刊行)に当館も紹介され、専門図書館としての広報の一助になりました。

### ア 閉架書庫内資料の簡易データの詳細化とバーコード貼付

当館では、図書館情報管理システムの導入に際して、運用開始時からより多くの資料のOPAC検索を可能にすることを基本方針としたため、多くの資料について書名・著者名といった最小限の項目だけを入力した「簡易書誌データ」を使用して運用を開始しました。システム導入後は、簡易書誌データに出版者・出版地・出版年・件名・キーワード・バーコード等を追加する詳細データ化を継続的に進めてきたところです。

2年度は、閉架書庫内に残る約20,000冊(点)の簡易書誌データのうち、約1,500冊(点)の詳細化を行いました《10箇年計画の4年次目》。

#### **イ 貴重コレクション書誌データのOPAC公開**

貴重コレクションのうち、2年度は、前年度に引き続き和装本コレクション約9,600冊(点)について、約1,300冊(点)の書誌データの詳細化と虫損被害状態等の確認作業を行いました。

また、大倉邦彦旧蔵文庫(約3,000冊(点))は533冊(点)の書誌データを作成し、作成済の書誌データは累計1,774冊(点)となりました《第1期5箇年計画の4年次目》。

平成30年度より開始した研究所沿革史資料の書誌データ公開は、2年度に10,908件をOPAC公開しました(3頁「1(3)ウ 沿革史資料目録のOPAC公開」参照)。

#### **ウ 貴重コレクションの撮影**

貴重コレクションは、資料保存の観点からコピーを禁止しており、その代替措置として、複写依頼のあった資料は司書によるデジタル撮影を行っています。

2年度は大学・研究機関・研究者等からの複写依頼を受け、旧制高等学校文庫『一高同窓会』、研究所沿革史資料『大倉邦彦講義ノート1～4回』『躬行』、古文書古記録影写副本『神学大意』『宝暦後記』など、17件778枚の撮影を行いました。

#### **エ 和装本コレクションコーナーの整備**

当館では貴重コレクションの一つとして、和装本コレクション約9,600冊(点)を所蔵しています。これらは一般書籍に混在して配架されており、資料保存の観点から一箇所に集約する書架移動作業を進めていましたが、2年度で全ての作業が終了しました《5箇年計画の5年次目》。

#### **オ 第1期経年劣化本修復事業**

当館の貴重コレクションの中には、400年余り前の『プラトン全集』や手書きの『遠山金四郎役宅日記』等、他館には所蔵されていない貴重資料が数多く含まれています。これらの資料を健全な状態で保存して後世に伝えて行くことは、当館の重要な役割の一つです。2年度は虫損等で利用不可となっていた金沢甚衛旧蔵資料の和装本18冊(点)を専門業者へ委託して修復しました《2箇年計画の2年次目》。

また、ボランティアの協力を得て継続してきた和装本各冊の保存箱作成は、新型コロナウイルス感染防止のため、令和2年4月から6月までの3箇月間活動を中止しましたが、7月から再開し、大名榊原家文庫125個の保存箱を作成しました(累計1,288個)。

#### **(4) 環境整備**

近年の図書館・博物館等の資料保存庫は、防虫、防カビ対策として、湿度・温度を一定に維持する

ため、外気を遮断した構造を備えています。

しかし、築年数の古い当館の書庫は、外気を遮断できる構造ではありません。貴重な資料を保存するには、湿度・温度・防虫・防カビ対策等の環境整備が重要になるため、書庫内換気のサーキュレーター稼働や、防虫のための粘着マット使用、カビ除去作業等を行いました。また、日本精神文化曼荼羅の保存ケース内の調湿温やそのデータ収集等、適切な環境維持に努めました。

## **(5) 情報提供機能等の充実**

### **ア レファレンスサービスの充実**

当館は、全国でも珍しい精神文化の専門図書館として、図書の公開に加えて、レファレンスの情報提供能力の向上に努めているところです。2年度は、専門図書館協議会や株式会社ブレインテックなどの団体が主催する初心者向けZOOM会議の講習や、リモートによる「今だからこそ見直しを！蔵書データ相談会」などに参加して情報を収集し、コロナ禍で直接来館が困難な状況における充実した蔵書データ提供等に取り組みました。

### **イ ホームページの活用とOPACサービス**

当館の利用者は、全国の研究者と近隣住民に大別できます。研究者はインターネット検索により、専門資料の利用に至ります。一方、近隣住民は直接来館し一般図書を利用していますが、来館者の年齢構成はシニア世代が比較的多数を占めています。

2年度は新型コロナウイルス感染防止のため、直接来館の利用は一時、予約本の貸出・返却のみとしました。そこで、新着本紹介ポスターの掲示と新着本リストの配布、資料予約方法を案内するチラシの配布を行ったところ、予約件数が前年度の97人・222冊から284人・520冊に大幅に増えました。

また、年間を通して新着図書やおすすめ本の紹介を毎月2回、資料展示・催し物の案内を随時更新して、情報発信を行いました。

### **ウ 多言語対応の促進**

多言語使用の利用者に対応するため、双方向多言語音声翻訳機を購入し、いつでも利用できるよう講習しました。また、入口案内や図書館カード申込書にルビや英文併記を行いました。

大倉山記念館指定管理者と共同で多言語対応リーフレットも作成し、当館の利用案内を掲載しました(4頁「1(4)イ 各種リーフレット等の編集・発行」参照)。

## **(6) 利用促進のための広報活動**

### **ア 所蔵資料の紹介展示**

#### **① 図書館資料展**

当館は、貴重コレクションを主な展示品とする「図書館資料展」を毎年開催しています。

2年度は、和装本コレクションから「諸国名所図会」を紹介する展示を1回、金沢甚衛旧蔵資料から修復が完了した資料18冊(点)を、その作業過程の写真とともに展示する展示を2回開催しました(9頁「3(3)オ 第一期経年劣化本修復事業」参照)。

<表-10「図書館資料展一覧」>

タイトル	期 間	入場者数
「祝 姉妹図書館提携大倉精神文化研究所附属図書館と 神崎市立図書館」	平成30年5月2日～	継続中
第23回 貴重コレクションを探るシリーズ (和装本コレクションより)「諸国名所図会」	8月8日～12月5日	1,122人
第24回 貴重コレクションを探るシリーズ 「資料を守る保存箱」	12月8日～1月30日	485人
第25回 貴重コレクションを探るシリーズ 「よみがえる古書 資料を守り伝える」	2月2日～3月31日	878人

## ② 図書館ミニ展示

当財団では、大倉山講演会、公開講演会その他のイベント(1～4頁「1 精神文化の研究およびその成果の普及」参照)を開催しています。当館はこのイベントの広報を補完するとともに、参加者が内容理解を深め、知識を広げられるよう、第1閲覧室の小スペースを利用し、関連図書のミニ展示を下記のとおり実施しました(表-11の表※印の展示)。

また、身近なテーマのミニ展示も毎月開催しました。展示資料は貸出可能としており、多くの利用がありました。

<表-11 「図書館ミニ展示一覧」>

タイトル	期 間	入場者数
第12回 「空海を読む」	6月5日～7月9日	196人
第13回 「東京オリンピック」	7月10日～7月31日	150人
第14回 「書籍で巡るGo to Travel」	8月1日～8月29日	246人
第15回 「書籍で巡るGo to Travel」海外篇	9月5日～10月3日	345人
※第16回 「古関裕而の音楽人生」 講演会「作曲家古関裕而の音楽人生一人柄と作品一」関連	10月1日～11月7日	296人
※第17回 「インドの岡倉覚三」 講演会「インドの岡倉覚三」関連	11月10日～12月5日	254人
第18回 「クリスマスのお話」	12月8日～12月26日	212人
第19回 「図書館で学ぶ豊かな心(1) 東洋文庫で発見！中国3千年の歴史と文化」	1月5日～1月30日	319人
第20回 「図書館で学ぶ豊かな心(2) 日本美術に見る美しいところ」	2月2日～2月27日	499人
※第21回 「江戸時代の身体観と養生思想」 講演会「江戸時代医学諸派にみる身体観と養生思想」関連	3月2日～3月31日	379人

## ③ タゴール月刊記念展示

インドの詩聖タゴールの誕生月と、昭和4年来日時の大倉邦彦邸宿泊が5月であったことを記念

し、当館では毎年5月をターゲット月間として、関連資料の展示を行ってきましたが、2年度は緊急事態宣言の発令を受けて横浜市大倉山記念館が全館休館したため中止しました。

#### **イ 大倉山秋の芸術祭**

近隣の住民が集う大倉山秋の芸術祭で、例年、当館はワークショップを開催してきました。しかし2年度は新型コロナウイルス感染防止の観点から開催期間が短縮されたため、ワークショップは中止し、過去5回開催したワークショップのポスターを掲示しました。その中から今後参加してみたい企画の投票を行ったところ、約50人が参加しました。

#### **ウ 図書館総合展**

図書館総合展は、毎年全国の図書館や関連企業・団体が参加する図書館業界最大規模の催しで、2年度はオンラインでの開催となりました。当館では、図書館総合展運営委員会による公式企画「図書館見学会 ONLINE」に参加するため、当館の概要や所蔵資料の紹介ビデオ(約6分)を作成し、出展団体賞の一つであるブレインテック賞を受賞しました。

また、作成したビデオは誰でも視聴出来るよう、当財団のYouTubeチャンネルで公開しました。